

薩南海域におけるトビウオ資源調査について

1 はじめに

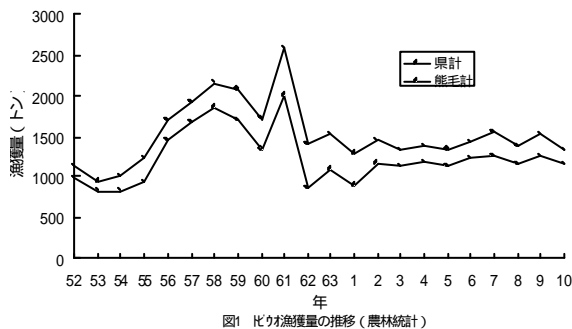
平成 10 年における本県のトビウオ類の漁獲量は 1330 トンで長崎県に次いで全国第 2 位でした。¹⁾ 当水試も過去にはトビウオ類の研究に力を入れ、漁況予測も行っていました。しかし、トビウオ類の種類が多いことと、広範囲の回遊を行うことからトビウオの資源生物学的な知見は十分に得られていないのが実状です。

このため、今年度から国庫委託の我が国周辺漁業資源調査の沿岸資源動向調査で調査を行うこととなりました。

私も、調査を始めるまでは日本近海にトビウオが約 30 種類近くも生息し、大きな回遊を行っていることを知りませんでした。そこで、薩南海域のトビウオ資源について手元にある資料を整理してみました。

2 漁獲の動向

本県のトビウオ類の漁獲動向は昭和 53 年の 940 トンから増加し昭和 61 年に 2591 トンに達した後減少し、その後は 1300 トンから 1500 トン程度の漁獲量で安定的に推移しています。その 8 割以上が熊毛海域で漁獲され（図 1）、中でも屋久町漁協は 800 トン前後



を漁獲しており、県内漁獲量の 6 割程度を占めています。

熊毛海域におけるトビウオ漁は、かつては 5 ~ 6 月の時期に主にツクシトビやホソトビを浮敷網により漁獲していましたが、近年で

はロープ式追い込み網により周年にわたって漁獲がみられるようになりました。



図 2 は本県における漁獲量の大部分を占める屋久町漁協と種子島漁協における 1999 年 8 月から本年 7 月までの月ごとの

水揚げ箱数から換算した漁獲量の相対的な変化を示したものです。屋久町漁協で 3 月 ~ 6 月と 9 月 ~ 10 月に漁獲が多く、種子島漁協で 4 月 ~ 10 月に漁獲が多くなっています。

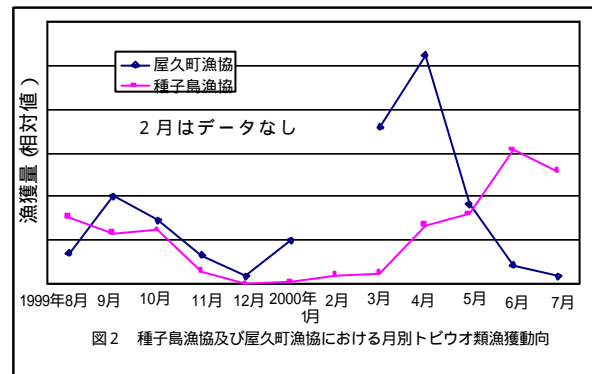
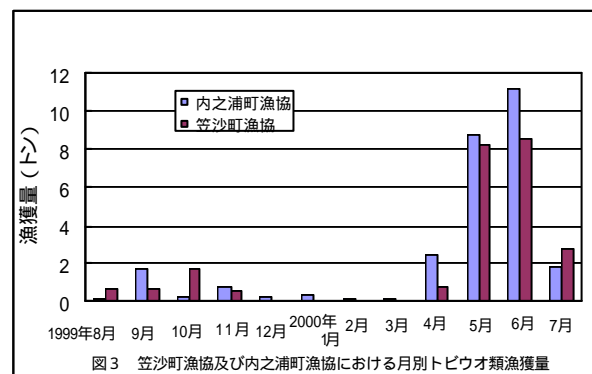


図 3 は笠沙町漁協及び内之浦町漁協で主に定置網により漁獲された 1999 年 8 月から本年 7 月までの月別漁獲量です。5 月と 6 月に漁獲が多く、9 月と 10 月にもややまとまった漁獲があります。



このように、本県のトビウオ類の月別漁獲量についてみると4月から7月の春～初夏に主漁期があり、大部分がこの時期に漁獲されているようです。そして、9月から11月の秋期にも春～初夏の漁獲量に比べると少ないもののまとまった漁獲がみられています。

3 トビウオ稚魚の出現状況

薩南海域にはどのような種類のトビウオ(稚魚)が出現しているのでしょうか？

薩南海域に出現するトビウオ類を検討するために当水試が1980年6月, 1981年4月・5月・8月・11月, 1982年1月・3月, 1996年～1999年(4年間)3月・4月・5月に大型ネット調査(詳細は各年の事業報告書を参照)により採集したトビウオ類の稚魚の尾数を調査月毎に集計しました。年ごとに調査月や曳網時間等に違いがありますが、今回は全体的な出現状況を把握するために全ての調査定点を集計しました。(表1)

表1 大型ネットにおける稚魚出現状況

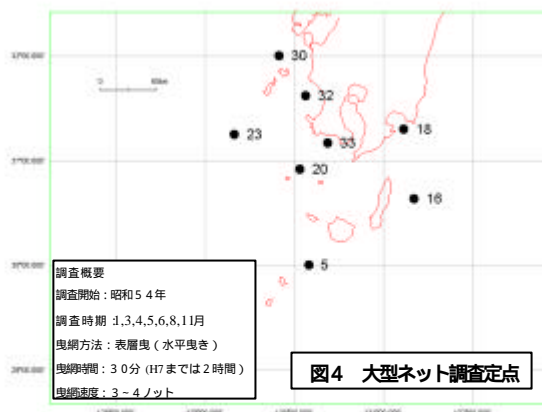
魚種	1月	3月	4月	5月	6月	8月	11月	総計
アカトビ				2	2			2
アヤトビウオ				7	14	35		55
アリアケトビウオ			1	1	2	41		45
イダテシトビウオ			5	18	2	9	4	38
ウケチトビウオ				7				7
ウチダトビウオ						16		16
オオスオキトビ				1				1
オオスナツトビ				1				1
オキトビ				3				3
オシロトビウオ	1	4		6	9	39	12	71
カラストビウオ					2	7		9
サガトビウオ			2	14	2	49		65
サヨリトビウオ				3		2	1	6
サンノジダシ				9				9
ダルマトビウオ						15		15
チャバネトビウオ				3				3
ツクシトビウオ		1		6	3	2		12
ツマリトビウオ		5	1	8	7	5		26
トビウオ	1	1	5	23	50	2		82
ニノジトビウオ		1		4	6	35	2	48
ハゴロモトビウオ		1	1	23	2	5	1	33
ハシヨウトビウオ			4			2	2	8
ハマトビウオ	1	18	32	12				63
ホソアオトビウオ			1	6	16	408	4	435
ホソトビウオ						1		1
マトウトビウオ				13				13
総計	3	36	47	170	107	674	31	1068

本県で主に漁獲されるのはハマトビ(主漁期12～2月), ツクシトビ・ホソトビ(5～6月), アヤトビ・アリアケトビ(6～7月), トビウオ(8～10月)で、それぞれの主漁期は産卵期と一致しているとのこと。2) 大型ネットに入網している稚魚はこれら親魚が産卵し、卵が孵化して成長し稚魚となったものと考えられます。

トビウオ(ホソトビ)のみ1～6月に大型ネットに入網しており長期間にわたって出現しています。3)

本県ではトビウオ未成魚を対象とした漁業はありませんが、資源的には未成魚が多く来遊しているものと考えられます。

また、主要トビウオ類について定点毎の出現数についても検討しました。調査年によって定点が異なるため、共通して調査が行われた8定点について集計しました。(表2)



魚種毎の傾向は見いだすことができませんが、調査定点毎に出現数が異なることがわかります。マアジ稚魚でも同様でしたが種子島東沖のST.16で最も多く出現しています。これは、この海域が黒潮の蛇行等により複雑な潮目を形成することと関係が深いのではないかと考えられます。

表2 主要トビウオ類稚魚の定点別出現状況

魚種	st.5	st.20	st.23	st.30	st.32	st.33	st.18	st.16	出現年月
アヤトビウオ	1	1	0	1	0	19	0	20	1981年5月
									1981年8月
									1999年5月
アリアケトビウオ	8	2	0	0	2	0	16	15	1981年4月
									1981年5月
									1981年8月
ツクシトビウオ	0	1	1	1	0	0	0	2	1982年5月
									1981年5月
									1996年5月
ツマリトビウオ	5	3	3	0	5	1	0	6	1981年5月
									1982年3月
									1981年8月
トビウオ	10	3	0	1	2	1	1	5	1981年11月
									1997年5月
									1996年5月
ハマトビウオ	7	1	4	2	1	1	0	13	1982年1月
									1999年5月
									1998年5月
合計	31	11	8	5	10	22	17	61	1999年4月
									1998年3月

4 最後に

実質数ヶ月しかトビウオ類を調査していませんが、資源的なことについては不明な点が多く、大変興味を持っているところです。まだ、手探り状態ですが、まず本県におけるトビウオ類の漁獲特性や生物特性を把握していきたいと思います。

- 1) 平成10年漁業・養殖業生産統計年報
- 2) 肥後：最近のトビウオ漁業うしお, 271
- 3) 今井貞彦：鹿児島大学水産学部紀要, 8